

## さあ！！はじめの一步！

鳥取県 JA鳥取中央女性会フレッシュミズ部会

杉川 一二美

「なんでもやってみい。みんな自分の宝になる」大好きだった祖父の口癖です。そして「知らんことは聞けばいい。やってみんとわからん」事あるごとにそう聞かされて私は育ちました。

「フレッシュミズを立ち上げようと思うだけど」事務局にそう聞かされ、よし！やってみよう！と初代部長に手を挙げて今年で3年目になりました。今ではあの祖父の言葉が私の生き方そのものになっています。

私は香川県の小豆島で育ちました。「鳥取？それも農家？」と驚かれながら嫁いで一八年。今や家族経営協定を締結し、認定農業者となり、夫と共に経営主として切り盛りしています。

我が家は夫、高校一年の長女、中学二年の二女、夫の両親の六人家族で、大栄スイカと、切り花を周年栽培している専業農家です。ビニールハウスは1haあり、次から次へと播種、栽培、収穫を繰り返すため、農閑期はほとんどありません。それでも、作物を通して人の笑顔を見られる農業は苦労があっても、楽しくて仕方ありません。

私が嫁いだのは平成三年のこと。青年団の交流会で出会った夫とは大恋愛の末、つきあって五か月足らずで結婚という超スピード婚でした。知り合いのいない鳥取。畑と家の往復で家族としか顔を合わせない毎日。そう聞くと息が詰まる日々のように聞こえるかもしれませんが、我が家はそんなことはありませんでした。どんなに毎日話していても話が絶えることはなく、大笑いをしながらの作業は18年経つ今も続いています。

そんな生活の中で、私を初めて外の世界へ連れ出してくれたのは、プルーンサークル（若妻会）でした。私の住む地区は専業農家が多く、地区の専業農家の嫁が常時20名ほど集まり活動していました。各自が間引いたスイカを持ち寄り地元の造り酒屋の酒粕を使って「粕漬け」を作ったり、一品持ち寄りの新年会や、山からツルを採っての籠編み、一泊研修など、みんなでやりたいことを計画して自主運営するプルーンサークルは、先輩方の知恵をもらったり相談もでき、地元へ根付いていく私の憩いの場になりました。

この活動経験が元となって、今の私があるのです。

フレッシュミズを立ち上げて部長に立候補した時「プルーンサークルのような活動をしよう。それだったら私にもできるかもしれない！」と意気込んでいました。大きく違ったのは管内の広さでした。JA鳥取中央は10個のJAが合併した大型JAです。プルーンサークルのような、たった一つの地区での活動

がどこまで生かせるのか、だんだんと不安が募っていきました。そして「知らないことは聞けばいい。やってみんとわからん」という祖父の言葉を思い出しながら、第一歩を踏み出したのです。

各支所の事務局の力を借りて声をかけてもらい一八名の参加者を得て、平成19年5月第一回の「顔合わせ食事会」を開催しました。そこで初めて会った人が私に声をかけてくれました。「自分の周りには農家のお嫁さんは私一人。『農家は大変だなあ』と言われると情けなく思っていた。今日ここへ来て良かった！」この言葉は、私の心に大きく響きました。これがフレッシュミズ世代の思いの原点ではないだろうか。「今日ここへ来て良かった！」そう言ってもらえるようなフレッシュミズにしよう！そう思いました。

それから、試行錯誤が続きました。知り合いのいない町でどう声をかけていけばいいのか。どうやってフレッシュミズの活動を知ってもらえばいいのか。何もかもが初めてで手探り状態でした。企画しても参加者が少ないうえに、なかなか次の計画ができません。そう言いながらあっという間に一年が過ぎてしまいました。

しかしこの年、フレッシュミズ全国集会へ参加したことが、私に大きな力をくれました。全国に同じ思いで頑張っている仲間が沢山いる。フレッシュミズとして先を進む仲間に励まされ、沢山のヒントと大きなパワーをもらったのです。2年目は、確実に一歩踏み出す一年にしたい！そう思いました。この時の仲間は、今も私に力を注いでくれています。

まず、「あぐりキッズスクール」の閉校式で時間をいただき、「いちご大福を作りますか？」と声をかけてみました。すると今まで仲間がいなかった市から参加したいと声があがりました。よし！もっともっとPRしていこう！！そこで、活動の様子の写真を入れた「フレッシュミズ通信」を管内の直売所全店に置いて頂くことにしました。また全会員にも配布することで、欠席をしても活動の様子がわかるようにし、再度参加しやすいよう配慮をしました。

専業農家の仲間から「毎年夏野菜がいっぱい採れるから、料理講習をしてほしい」と声があがった時には、すぐに事務局と企画しました。今やりたいことを今やるからこそ、意味があると思うのです。専業農家の仲間が多いので、野菜はすべて持ち寄りで購入しました。山のような野菜を前にしてびっくりしていたのは、新しく入った非農家の仲間です。農家の思いを聞きながらの作業に「初めて農家の人の気持ちがわかった」と嬉しい声が聞こえてきました

活動の時には必ず、地元有線テレビと新聞社に取材をお願いしました。「みんな笑顔で映るだよ～」と声をかけ、笑いあいながらの活動の様子は、各家庭のテレビで流され、新聞にも大きく写真が掲載されました。これが地域の方に「フレッシュミズ」の活動を知って頂ける事にもつながりました。「テレビに知ってる人が映ってたから」と入会のきっかけになった仲間もいます。

管内ではフレッシュミズ世代対象の女性大学も始まりました。全くJAに縁

がなかった方もあり「女性会ってなんですか？」と聞かれることもあります。親しくなっていく中で、フレッシュミズの活動へ誘ってみると興味を持って参加してくださり、仲間の輪が広がってきました。

次々とやってみたい事への声があがります。活動中に「豆腐も作ってみたい」と聞くと、すぐ事務局と話し合い、帰る頃には「豆腐作りを企画するから来てね」と声をかけました。加工品をつくる時には、女性会の先輩が先生を務めてくださいます。「若い人の会は身軽に動いてごしなる。楽しげでええなあ。また教えてあげるけえなあ！」ありがたい言葉をいただいて、私達の活動にも幅が生まれていきます。

各自がやりたいことを提案し、次の企画へつなげた二年目は、会を企画するごとに仲間が増えていきました。しかし、全力で突っ走っているのは大変でした。「役員」と名がつくのは部長の私だけ。私が「やろう」と言えば「やりましょう」と答えてくれるフットワークの軽い事務局がいるからこそ、できる活動です。今の大変さを次の人につなげていってもいいのだろうか。そう考えながらひたすら二年目を突っ走っていました。

三年目の今年。私は、もう一年部長を受けることにしました。やはり、今の流れを次へつなげてはいけないと考えたからです。今年は活動形態を変えていこう。事務局もそう考えていました。そこで、管内を四ブロックに分けて代表を決め、一年に一回企画をしてもらうことを提案したのです。広い管内の中には大きな人数の偏りがあります。何度も活動をしようとする、人数の多い支所での開催が増え、遠くて参加しにくい人が出てきます。ブロック内で開催すれば参加しやすく、友人も誘いやすいのではないだろうかと考えたのです。この形が軌道にのるまでは、今までどおり管内全体を対象とした活動も企画しています。各ブロックの代表と、今まで毎回共に活動してきた各支所の事務局が力を合わせて、企画してくれることを期待しています。

今、私はフレッシュミズ以外にも沢山の役員を受けています。当然のことながら、農業の手を抜くわけにはなりません。農作業も家事も子育てもそして役員の仕事も、すべてを私一人で回すのは限界があります。我が家では家族経営協定を締結し家族の理解と協力のおかげで、これらをこなしています。家族の誰が出かけても、変わりなく仕事も家事もこなします。もちろん、家族みんなの手伝います。お互い助け合いながらの生活は、誰もが気持ちよく出かけられます。

気持ちよく出かけるための秘訣は「お互い様」という気持ちと「感謝」の気持ちです。家族みんなに「出かけさせてくれてありがとう」という言葉を必ず口にします。また、会での楽しかったことや、勉強した内容などを話しながら作業をしています。

同じように畑に出て、同じものを食べ、24時間一緒に生活している農家だからこそ、男女共同参画が大切なのです。

18年前、私に「共に輝きたい！」そう夫が言ってくれたから、今の私があります。「頼まれたなら受けてあげないな。できると思うから頼みなっただで？」と義母が背中を押してくれるから、また新たな一步を踏み出せます。家族に感謝しながらの一步は、とても気持ちよく踏み出せる一步です。そのおかげで「なんでもやってみい。自分の宝になる」という祖父の言葉の通り、沢山の宝ができました。これからもフレッシュミズの仲間と楽しみながら、新たな一步踏み出し、宝を増やしていきたいと思っています。